

## 『私が誇るもの』 コリント人への手紙第二 11章19～31節 2016.8.14(聖日礼拝説教より)

『主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われた…。』 Ⅱコリント12:9

◆人と人が争い、憎み合う原因は何？パウロ批判の根本に、彼の後に来た偽りの教師たちの「自分を誇る」心がある。彼らはコリント教会の信徒を「恵みから引き離して再び《行い》の奴隷にし、金銭を要求し、抑圧した(20節)」。彼らは、自分たちが生粋のヘブル人、神に選ばれしイスラエル人、神の祝福を受けたアブラハム直系の子孫であり、特別な存在だと威張り、パウロを見下した。パウロは、愚かさには愚かさでと、自分もそれらの全てを持っているが、神の前に何の自慢にもならないことを告げた。うわべや自分の価値を誇る傲慢な心に悪魔はとりつく。

◆30年以上前、アメリカの普通の教会の普通の牧師が、ある時、「私がキリストだ！私を信じる者は救われる」と言うようになり、「私と死ぬ者は天国に行ける」と洗脳し、大量自殺へ追い込んだ！世の何をも誇らず、ただ神の恵みを感じ感謝する心だけが悪に勝利できる！パウロは、自分にとって価値ありと思っていた血統や能力や行いが、キリストを知った時、ゴミ同然と気づかされ、良い行いによってではなく、ただイエス様と結ばれ、ただ主を信頼して御心にかなう者にされたいと願うようになった。『私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです(Ⅱコリント 4:18)』。神に創られ、愛されているという目に見えない尊厳こそ、最も価値あるもの！

◆パウロは、伝道生涯のあらゆる試練(鞭打たれ、石を投げつけられ、何度も殺されかけ、飢えて、裸で、苦しめられた…28～29節)を通して自分の弱さを思い知らされた。しかしその弱さを通して他者の痛みを感じ、弱さを通して誰かの苦しみに寄り添う者となれたことを知り、『自分の弱さを誇る(29節)』と告白！さらに、その弱さの中で、キリストの憐みと圧倒的な救いの力も知った！私たちの救い主は、『私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんが、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われた(ヘブル 4:15)』お方！

★今週も、自分の弱さを隠さず、素直な神の子として御前で恵みは助けと力をいただき、誰かの弱さに寄り添う者となれますように！